

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

米国政府機関の一部閉鎖により直近の情報を入手できなかったため、掲載を見送ります。

E U

枝肉価格の記録的な高値が継続

25年7月の牛肉生産量、前年同月比3.1%減

欧州委員会によると、2025年7月の牛肉生産量（EU27カ国）は52万6880トン（前年同月比3.1%減）とやや減少した（図1）。これは、飼料価格の下落と牛肉価格の高騰による肥育期間の長期化の傾向から、1頭当たり枝肉重量が300.1キログラム（同1.5%増）とわずかに増加したものの、飼養頭数の減少や高乳価を背景とした一時的な搾乳牛の更新

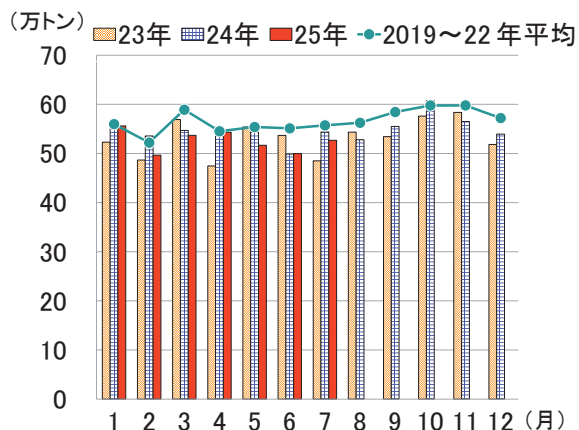
時期の延長により、と畜頭数が175万5740頭（同4.5%減）とやや減少したことが影響した。また、同年1～7月の累計牛肉生産量は367万5870トン（前年同期比3.0%減）と前年同期をやや下回った。

25年9月の枝肉卸売価格、前年同月比34.2%高

2025年9月の牛枝肉平均卸売価格^{（注1）}は、1キログラム当たり6.94ユーロ（1248円、1ユーロ：179.81円^{（注2）}、前年同月比34.2%高）と記録的な高値が続いている（図2）。これは、EU域内での牛肉需要の堅調な推移に加え、肥育牛の供給が限られていること、および輸入牛肉の国際相場の高騰によるものとみられる。

現地報道によると、クリスマスなど年末需要に向けた在庫積み増しの動きもあり、去勢牛および若齢牛への引き合いは強いとされている。

図1 牛肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

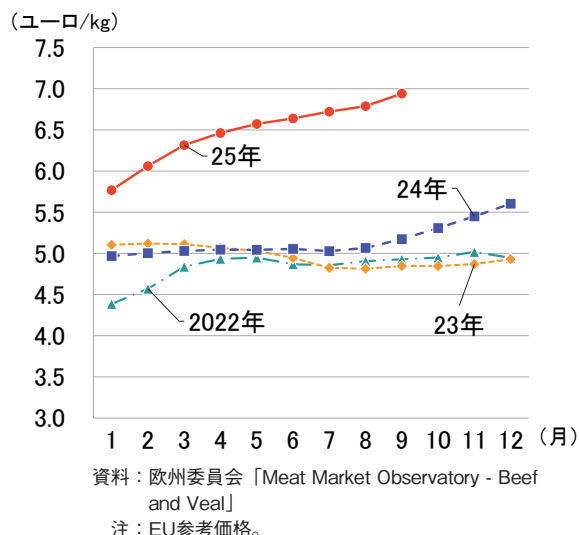
注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

（注1）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度合いが平均的（5段階中3）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。

図2 牛枝肉卸売価格の推移



25年1～8月の牛肉輸出量は減少、輸入量は増加

2025年1～8月の牛肉輸出量は、28万7095トン（前年同期比11.4%減）とかなり

大きく減少した（表1）。域内の牛肉価格が高値で推移していることから、冷蔵牛肉の輸出量は同9.0%減、冷凍牛肉の輸出量は同16.8%減となった。

一方、同期間の牛肉輸入量は、19万5643トン（同13.0%増）とかなり大きく増加した（表2）。これは、域内需給のひっ迫に加え、24年にアルゼンチンが牛肉輸出規制を緩和したこと、さらに高級牛肉無税枠（481枠）^{（注3）}を超えてもなおウルグアイ産牛肉への引き合いが強かったことなどが背景にある。冷蔵牛肉は同3.9%増、冷凍牛肉は同31.2%増と、それぞれ輸入量が増加している。

（注3）高級牛肉無税枠（EU規則481/2012。Quota481）は、一定期間の穀物給与などが義務付けられている。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～8月)	25年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
冷蔵	英国	11,792	9,033	▲23.4%	97,338	94,659	▲2.8%
	トルコ	4,660	3,801	▲18.4%	53,621	36,146	▲32.6%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	3,586	2,853	▲20.4%	22,378	17,338	▲22.5%
	アルジェリア	3,226	2,774	▲14.0%	17,437	19,710	▲13.0%
	スイス	1,640	1,857	▲13.2%	11,044	12,641	▲14.5%
	その他	2,996	3,046	▲1.7%	21,936	23,187	▲5.7%
	合計	27,900	23,364	▲16.3%	223,754	203,681	▲9.0%
冷凍	英国	5,642	4,061	▲28.0%	44,948	41,001	▲8.8%
	ガーナ	331	591	▲78.5%	2,736	5,560	▲103.2%
	フィリピン	1,249	304	▲75.7%	9,416	3,442	▲63.4%
	イスラエル	426	298	▲30.0%	2,783	1,673	▲39.9%
	米国	256	255	▲0.4%	1,969	1,796	▲8.8%
	その他	4,673	2,646	▲43.4%	38,361	29,942	▲21.9%
	合計	12,577	8,155	▲35.2%	100,213	83,414	▲16.8%
冷蔵・冷凍計		40,477	31,519	▲22.1%	323,967	287,095	▲11.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸入先	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～8月)	25年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
冷蔵	英国	4,696	4,242	▲9.7%	40,063	35,741	▲10.8%
	アルゼンチン	3,059	3,421	11.8%	30,198	33,830	12.0%
	ウルグアイ	1,115	1,177	5.6%	14,803	19,026	28.5%
	ブラジル	1,357	1,636	20.6%	11,302	12,844	13.6%
	米国	895	746	▲16.6%	7,976	8,345	4.6%
	その他	1,815	1,374	▲24.3%	11,172	10,180	▲8.9%
	合計	12,937	12,596	▲2.6%	115,514	119,966	3.9%
冷凍	ブラジル	1,988	4,846	143.8%	25,760	32,993	28.1%
	英国	1,305	1,544	18.3%	10,377	14,176	36.6%
	ウルグアイ	689	1,641	138.2%	8,339	10,931	31.1%
	アルゼンチン	457	391	▲14.4%	3,306	5,912	78.8%
	ナミビア	717	476	▲33.6%	2,794	3,853	37.9%
	その他	1,133	1,373	21.2%	7,093	7,812	10.1%
	合計	6,289	10,271	63.3%	57,669	75,677	31.2%
冷蔵・冷凍計		19,226	22,867	18.9%	173,183	195,643	13.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

(調査情報部 渡辺 淳一)

豪州

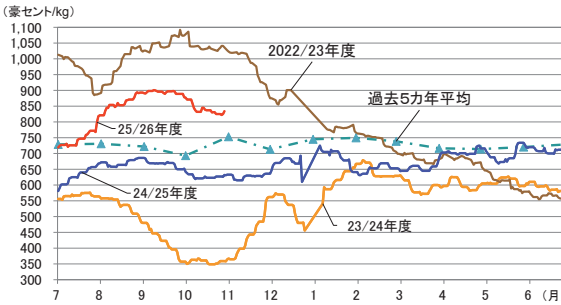
牛肉輸出量、主要輸出先がけん引し四半期ベースで過去最高

25年10月若齢牛価格は下落傾向も、降雨により復調の見通し

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2025年9月上旬以降緩やかな下降傾向が続いており、直近同年10月29日時点では、1キログラム当たり825豪セント（850円：1豪ドル＝103.07円^{（注）}）となった（図1）。現地報道によると、ニューサウスウェールズ（NSW）州南部およびビクトリア（VIC）州での降雨量の減少により、牧草の確保が困難と判断した生産者による出荷の増加が価格下落の一因とされている。

一方、豪州東部地域における10月27日の週の豪雨で、EYCI価格の下落は落ち着きを見せている。また、今後の見通しについて、

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

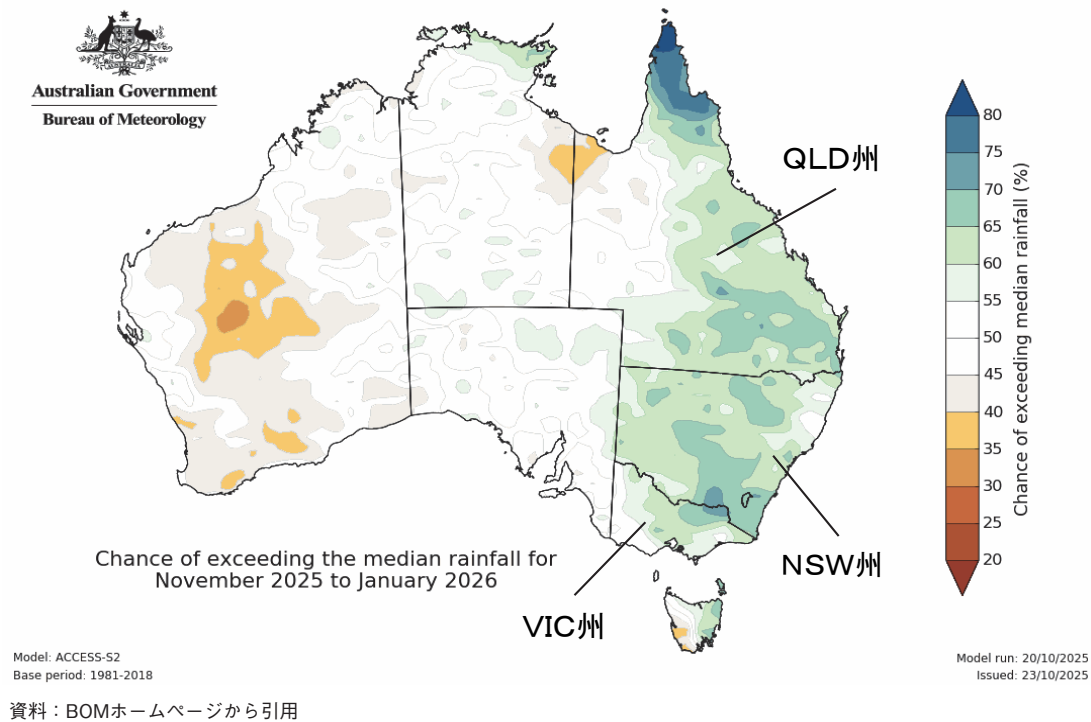
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クィンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

現地アナリストによると、豪州気象局(BOM)の予報で25年11月から26年1月にかけて、主要肉用牛生産地域であるクイーンズランド(QLD)州、NSW州での平年以上の降雨があり、牧草の生育環境の改善が見込まれる

ことから、家畜の早期出荷の動きは落ち着き、価格も安定すると分析している(図2)。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。

図2 25年11月から26年1月の豪州における降雨予想図



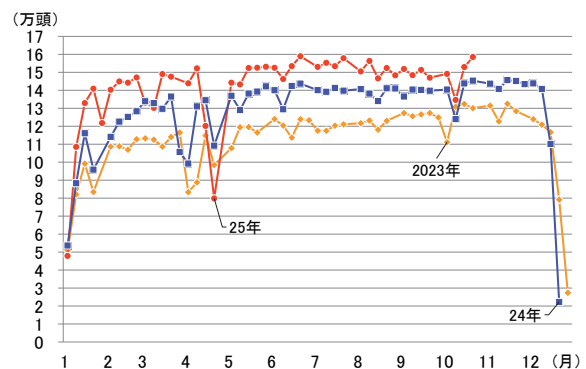
成牛と畜頭数は本年2番目の記録、海外需要の高まりを反映

2025年10月の週間成牛と畜頭数は、祝日による人員不足の影響で一時的な減少があったものの、10月第4週は15万8551頭(前年同期比9.1%増)と今年2番目の水準を記録した(図3)。特にQLD州は今年最大のと畜頭数となる8万4290頭を記録し、全体の53.2%を占めた。

現地報道によると、豪州最大の食肉加工業者であるJBSオーストラリアは、同社ディンモア牛肉処理施設(QLD州)において、約200人の人員を調達し、10月から週当たり

と畜頭数を1600頭増加させるなど処理頭数の拡大を図ったと報じられている。同社の関係者によると、今回の処理頭数の拡大は、

図3 成牛と畜頭数の推移(週間報告)



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ(子牛は含まない)。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

海外需要の高まりと国内供給量に連動した事業拡大を目指す同社の姿勢を反映したものと述べている。

25年9月の牛肉輸出量、日本向けが前年同月比33.1%増加

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年9月の牛肉輸出量は13万9012トン（前年同月比21.9%増）と大幅に増加し、7月の15万435トンに次ぐ過去2番目の水準となった（表）。また、第3四半期の牛肉輸出量は42万5018トン（前年同期比16.2%増）と、四半期ペースで過去最高を記録した。

9月の輸出量を輸出先別に見ると、米国向けは4万1918トン（前年同月比12.6%増）と引き続き豪州の牛肉輸出をけん引した。米国向け加工用牛肉（90CL：赤身率90%のひき肉）は、10月第4週に1ポンド当たり3.46米ドル（1キログラムあたり1181円：1米ドル＝155.10円）と過去最高水準に達し、需要の高さを裏付けている。

また、中国向けは2万741トン（同28.3%増）と引き続き堅調で、セーフガードの影響が懸念されていた韓国向けも、2万1247トン（同34.1%増）と安定した水準を維持している。

加えて、前年を下回る水準が続いていた日本向けは2万2759トン（同33.1%増）と大幅に増加し、増加基調に転じている。現地報道によると、日本の輸入牛肉市場では豪州産が米国産との価格競争で優位となったとされている。一方、現地アナリストによると、年末にかけて米国では乳牛^{とうた}淘汰率が上昇し、牛肉生産量が増加することで牛肉価格が下落すると分析しており、日本市場での競争環境はさらに変化する可能性がある。

これら主要市場に加え、その他の輸出先市場も増加しており、特にカナダ向けは5745トン（同80.3%増）と大幅に増加した。カナダ最大の牛肉輸入先は米国であり、米国の牛肉輸出量減少により、世界市場における豪州産牛肉の存在感は高まりを見せている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 9月	25年 9月	前年同月比 (増減率)	25年	前年同期比
				(1～9月)	(増減率)
米国	37,218	41,918	12.6%	328,793	20.8%
日本	17,104	22,759	33.1%	182,985	▲7.1%
韓国	15,843	21,247	34.1%	165,137	15.2%
中国	16,161	20,741	28.3%	203,247	48.0%
東南アジア	14,184	12,573	▲11.4%	104,843	▲0.4%
カナダ	3,186	5,745	80.3%	36,131	75.8%
中東	2,958	4,426	49.6%	29,258	8.1%
EU	780	2,291	193.7%	17,872	83.9%
その他	6,612	7,312	10.6%	58,970	7.7%
輸出量合計	114,046	139,012	21.9%	1,127,236	16.5%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

（調査情報部 国際調査グループ）

豚 肉

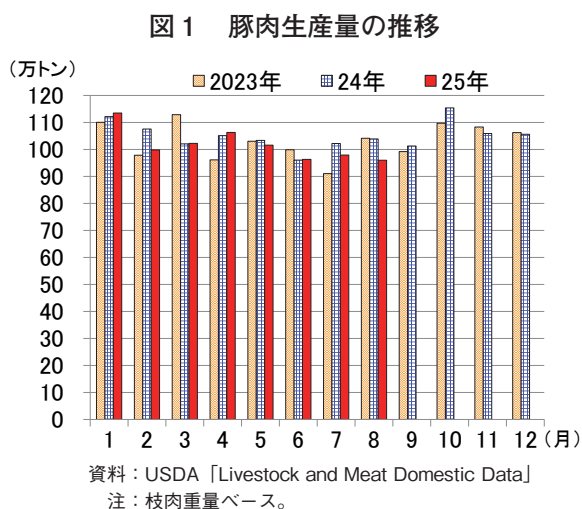
※米国政府機関の一部閉鎖により直近の情報を入手できなかったため、執筆時点にて入手可能な統計情報に基づいています。

米 国

25年8月の豚肉生産量は前年同月比7.6%減、一部州でPRRSの発生続く

25年8月の豚肉生産量、前年同月比7.6%減

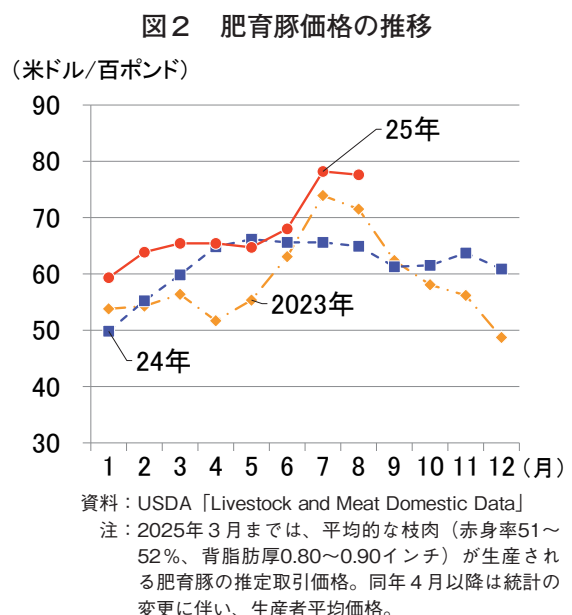
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年8月の豚と畜頭数は、農場における豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）がアイオワ州など一部の主要生産州で引き続き発生していることに伴い、1012万6500頭（前年同月比7.1%減）と前年同月をかなりの程度下回った。平均枝肉重量も減少（同0.5%減）したことで、同月の豚肉生産量は96万トン（同7.6%減）とかなりの程度減少した（図1）。25年の豚肉生産量についてUSDAは、1250万4000トン（前年比0.8%減）とわずかに減少すると予測している。



25年8月の肥育豚価格、前年同月比19.6%高

USDA/NASSによると、25年8月の肥育豚価格は、豚肉生産量の減少などから100ポンド当たり77.6米ドル（1キログラム当たり265円：1米ドル＝155.1円^{（注1）}、前年同月比19.6%高）と前年同月を大幅に上回った（図2）。また、同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注2）}）は、同115米ドル（同393円、同16.3%高）と、同じく大幅に上回った。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。
（注2）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。



25年7月の豚肉輸出量、前年同月比2.7%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年7月の豚肉輸出量は25万333トン（前年同月比2.7%減）とわずかに減少した（表）。最大の輸出先となるメキシコ向けは、米国豚肉価格の上昇に伴う競争力

の低下などから、9万5317トン（同10.7%減）とかなりの程度減少した。日本向けは、3万7287トン（同0.6%減）とわずかに減少した。一方、韓国向けは、堅調な需要に加え、中国向けの一部が振り替えられたとみられることなどにより、2万3771トン（同23.2%増）と大幅に増加した。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 7月	25年 7月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～7月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	106,742	95,317	▲10.7%	38.1%	697,827	0.5%
日本	37,520	37,287	▲0.6%	14.9%	264,814	▲10.3%
韓国	19,299	23,771	23.2%	9.5%	191,546	▲8.3%
カナダ	18,558	15,646	▲15.7%	6.3%	114,408	▲14.8%
中国	16,491	13,730	▲16.7%	5.5%	98,237	▲6.8%
コロンビア	11,263	12,511	11.1%	5.0%	99,505	16.0%
ドミニカ共和国	8,645	9,643	11.5%	3.9%	67,967	▲6.4%
豪州	9,465	6,601	▲30.3%	2.6%	67,603	▲8.0%
その他	29,321	35,827	22.2%	14.3%	227,947	10.7%
合計	257,304	250,333	▲2.7%	100.0%	1,829,853	▲2.5%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部 小林 大祐）

カナダ

25年の豚肉生産量、と畜頭数の増加から前年比で2.4%増の見込み

25年7月の豚総飼養頭数、前年同月比1.3%減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2025年7月1日時点の豚総飼養頭数は1382万頭（前年同月比1.3%減）とわずかに

に減少した（表1）。内訳を見ると、繁殖豚が122万頭（同0.4%減）、肥育豚は1256万頭（同1.3%減）となった。と畜頭数の増加に加え、生産者が積極的な増頭を行わなかったことにより、引き続き繁殖豚が減少しているため、総飼養頭数が減少した。

表1 豚飼養頭数の推移

(単位：千頭)

種類	2023年	24年	25年	前年同月比 (増減率)
繁殖豚	1,242.2	1,228.7	1,224.2	▲0.4%
肥育豚	12,567.8	12,766.3	12,595.8	▲1.3%
23kg未満	5,140.1	5,307.0	5,236.4	▲1.3%
23～53kg	2,418.7	2,405.1	2,397.9	▲0.3%
54～80kg	2,410.9	2,368.9	2,338.5	▲1.3%
81kg以上	2,598.1	2,685.3	2,623.0	▲2.3%
合計	13,810.0	13,995.0	13,820.0	▲1.3%

資料：Statistics Canada
注：各年7月1日現在。

25年9月の豚と畜頭数、前年同月比1.8%増

カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、2025年9月の豚と畜頭数は211万3000頭（前年同月比1.8%増）、同年1～9月の累計では、カナダ西部のマニトバ州における豚肉大手加工施設の稼働率上昇や、廃用母豚のと畜能力向上などから、1633万1000頭（前年同期比2.8%増）といずれもわずかに増加した（図1）。

25年のカナダの豚肉生産量について米国農務省海外農務局（USDA/FAS）は、と畜頭数の増加（2980万頭、同0.7%増）など

から214万トン（同2.4%増）とわずかな増加を見込んでいる。

25年9月の肥育豚価格、前年同月比21.3%高

AAFCによると、2025年9月の肥育豚価格は、米国の肥育豚価格（注1）が上昇している中で、100キログラム当たり301カナダドル（1キログラム当たり336円：1カナダドル＝111.79円（注2）、前年同月比21.3%高）と大幅に、同年1～9月の平均価格は同278カナダドル（1キログラム当たり311円、前年同期比11.2%高）とかなり大きく、いずれも上昇した（図2）。

図1 豚と畜頭数の推移

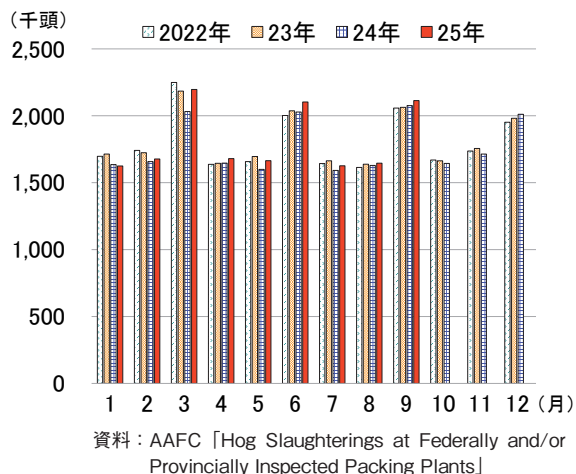
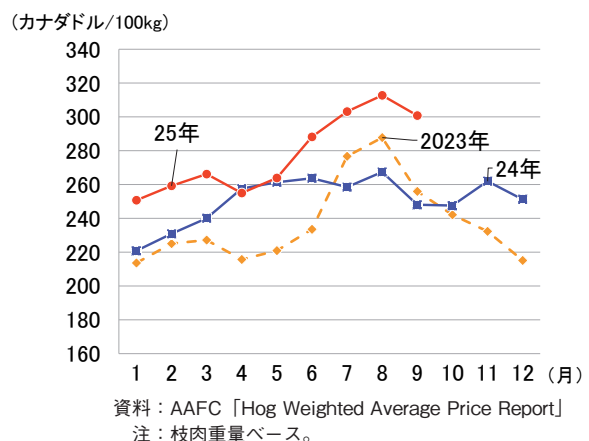


図2 肥育豚価格の推移



(注1) カナダの肥育豚価格は一般的に、米国の肥育豚価格に基づいて算定されるため、同価格の変動による影響を受ける。詳細は『畜産の情報』2019年11月号「カナダ豚肉産業にみる多様性と肥育豚価格の算定方式をめぐる議論 (https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000834.html)」をご参照ください。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。

25年1～7月の豚肉輸出量は前年同期比4.5%減

カナダ統計局 (Statistic Canada) によると、2025年7月の豚肉輸出量は7万9625トン (製品重量ベース、前年同月比11.3%減) とかなり大きく減少し、同年1～7月の累計では62万6388トン (前年同月比4.5%減) とやや減少した (表2)。

7月の輸出量を輸出先別に見ると、日本向けは2万1094トン (同7.9%増) とかなりの程度増加した一方、米国向けは2万2281トン (同3.9%減)、メキシコ向けは1万3655トン (同4.0%減) と、ともにやや減少した。また、中国は同年3月20日以降、カナダ産豚肉に対して25%の追加関税を課しており (注3)、同国向けの輸出量は3445トン (前年同月比61.6%減) と大幅に減少した。

(注3) カナダ政府が2024年10月以降、中国製の電気自動車や鉄鋼、アルミニウム製品の輸入に追加関税を課したことを受けて採られた措置の一部となっている。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 7月	25年 7月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～7月)	
					前年同期比 (増減率)	
米国	23,175	22,281	▲3.9%	28.0%	153,160	▲6.9%
日本	19,554	21,094	7.9%	26.5%	176,618	21.9%
メキシコ	14,220	13,655	▲4.0%	17.1%	97,257	10.8%
フィリピン	8,608	4,989	▲42.0%	6.3%	47,747	▲21.4%
韓国	5,968	4,808	▲19.4%	6.0%	47,330	▲1.9%
中国	8,971	3,445	▲61.6%	4.3%	30,733	▲50.8%
その他	9,274	9,354	0.9%	11.7%	73,544	▲15.7%
合計	89,769	79,625	▲11.3%	100.0%	626,388	▲4.5%

資料：Statistics Canada
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

(調査情報部 大西 未来)

中国

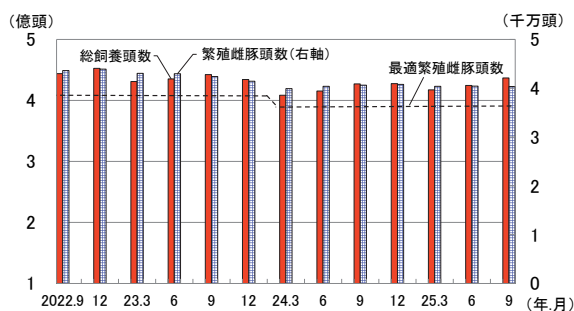
豚肉供給量の増加から豚肉価格は下落傾向で推移、輸入量はわずかに減少

25年9月末の繁殖雌豚頭数、前年同月に比べ0.7%減

中国農業農村部によると、2025年9月末時点の繁殖雌豚頭数は4035万頭 (前年同月

比0.7%減、前期 (25年6月) 比0.2%減) と前年同月をわずかに下回ったものの、前期並みとなった (図1)。同頭数は、同部が最適な飼養水準 (以下「最適水準」という) とする3900万頭を3.5%上回っている。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局

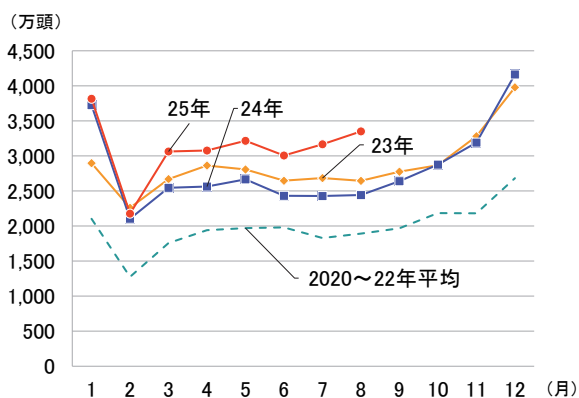
注1：四半期ごとの公表値（25年9月の繁殖雌豚頭数のみ国家统计局の公表値）。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

25年8月の豚と畜頭数、前年同月比37.2%増

2025年8月の豚と畜頭数は、3350万頭（前年同月比37.2%増）と大幅に増加した（図2）。農業農村部が同年10月に公表した「農産物需給動向分析月報」（以下「月報」という）によると、25年上半期に繁殖雌豚頭数が最適水準を上回ったことによる子豚出生数増加に加え、同期間中の出荷先延ばし分や二次肥育^{（注1）}による大型生体豚の出荷頭数増加が要因とされている。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

（注1）出荷適正体重となった肥育豚を購入して再肥育し、通常の出荷体重以上に増体させること。生体豚価格の上昇が見込まれる場合に実施されることが多い。

25年9月の豚肉小売価格、前月比1.9%安

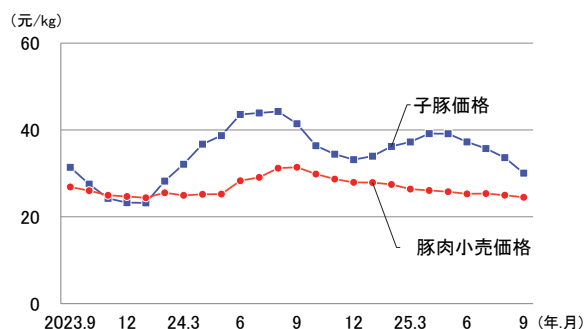
豚肉価格は、2024年10月から下落に転じており、25年9月の豚肉小売価格は、1キログラム当たり24.5元（338円：1元＝21.97円^{（注2）}、前月比1.9%安、前年同月比22.0%安）と安値で推移している（図3）。この要因について、月報によると、二次肥育による大型生体豚の出荷頭数増加などで市場への豚肉供給量が増加した一方、豚肉消費の鈍化が継続したためとされている。

豚肉生産にも影響する同年9月の子豚価格は、同30.1元（661円、同10.6%安、同27.5%安）と、5月以降下落が続いている。この要因について現地関係者は、1）生産能力の調整措置^{（注3）}に伴う繁殖雌豚頭数削減と積極的な子豚売却、2）豚肉価格の下落による肥育農家の導入意欲低下—を挙げている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。

（注3）2025年7月17日に国务院新聞弁室は上半期の農業・農村経済の運営状況を報告する記者会見を実施し、養豚業について生産能力を調整する措置を発表した。詳しくは、海外情報「中国農業農村部、養豚と肉牛、酪農の動向について見解を公表（中国）」（令和7年7月31日発）（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004184.html）をご参照ください。

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

25年1～9月の豚肉輸入量、前年同期比0.8%減

2025年1～9月の豚肉輸入量は、77万7927トン（前年同期比0.8%減）と前年同期

をわずかに下回った（表）。この要因として、国内供給量が十分で、国内豚肉価格も安値で推移しているため、輸入豚肉の価格優位性が相対的に弱まったことが考えられる。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

国名	2023年	24年	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	37.8	29.0	23.2	8.1%
ブラジル	40.2	23.7	12.6	▲32.8%
カナダ	13.2	7.6	5.4	3.1%
米国	12.3	7.0	4.7	▲1.6%
オランダ	12.0	7.5	5.9	1.8%
チリ	8.4	6.5	5.2	▲1.3%
その他	30.1	23.7	20.8	21.1%
合計	154.1	105.0	77.8	▲0.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部 山崎 葵）

牛乳・乳製品

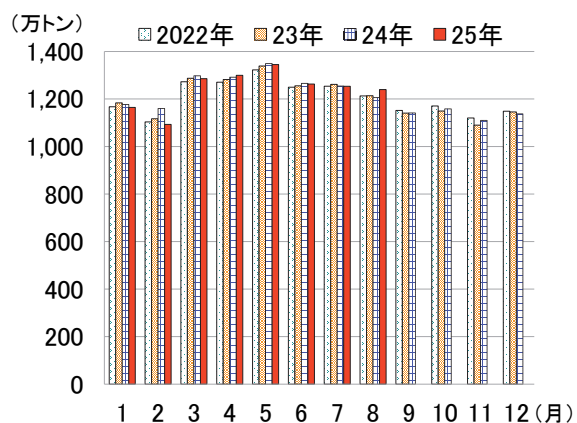
E U

バター価格が引き続き下落も、生乳取引価格は高水準で推移

25年8月の生乳出荷量は前年同月比2.8%増

欧州委員会によると、2025年8月の生乳出荷量（EU27カ国）は1239万6000トン（前年同月比2.8%増）と、わずかに増加した（図1、表1）。現地報道によると、1）良質な牧草の生育に適した気象条件、2）高水準で推移する生乳取引価格、3）24年に発生したブルータングによる分娩の遅れーなどが出荷量の増加の背景にあるとされている。なお、

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

同委員会によると、同月の乳脂肪分は4.03%（同0.04ポイント増）、無脂乳固形分は3.44%（同0.06ポイント増）であった。

表 1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：万トン)

国名	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～8月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	267	272	2.1%	2,168	▲1.8%
フランス	186	194	4.2%	1,622	▲0.3%
ポーランド	113	117	3.5%	930	0.9%
オランダ	111	116	4.9%	922	▲0.8%
イタリア	102	104	2.5%	865	▲3.2%
アイルランド	91	98	6.7%	680	6.4%
その他	336	338	0.6%	2,757	▲1.0%
合計	1,206	1,240	2.8%	9,943	▲0.6%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

25年9月の生乳取引価格は前年同月比8.0%高

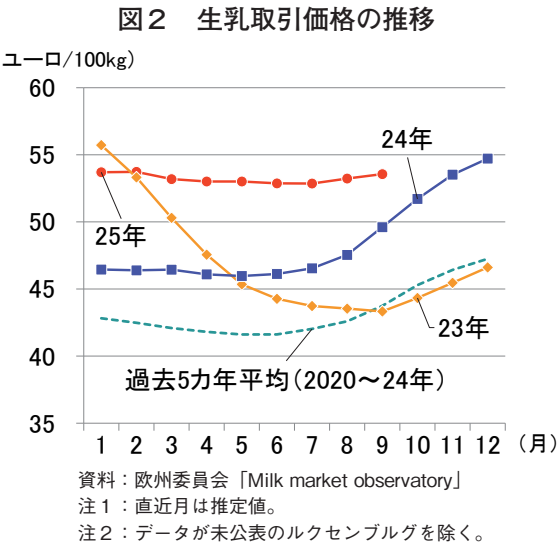
欧州委員会によると、2025年9月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.56ユーロ（1キログラム当たり96円：1ユーロ＝179.81円^(注)、前年同月比8.0%高）と17カ月連続で前年同月を上回った（図2）。好調な価格を維持している

背景には、同月のバター価格が下落した一方で、チーズやホエイなどの価格が比較的安定していたことがあるものと考えられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。

バター価格、25年10月に入り600ユーロを下回る

欧州委員会によると、2025年10月26日の週の製品別乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり574ユーロ（1キログラム当たり1032円、前年同期比25.6%安）と、24年5月第2週以来で初めて、600ユーロ（1079円）を下回った（図3）。米国産バターの価格下落の継続や、ニュージーランド（NZ）産バターに対する価格競争力の低下により、EU産バターの価格の下落が継続している。このほか、全粉乳が同356ユーロ（同640円、同14.7%安）、脱脂粉乳が同216ユーロ（同388円、同13.1%安）と、いずれも前年同期をかなり



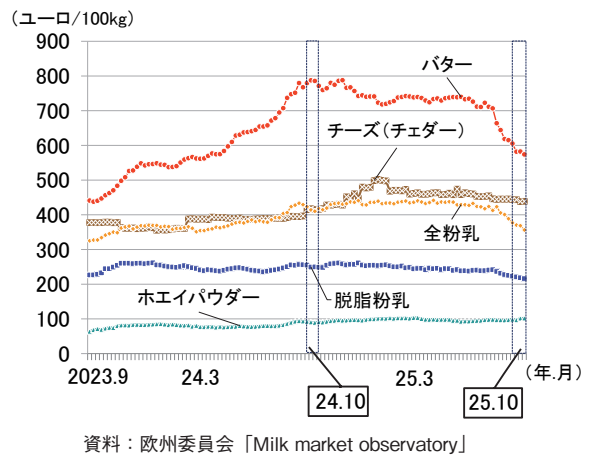
大きく下回った。一方、チーズは同439ユーロ（同789円、同5.5%高）と、前年同期をやや上回った。

また、乳固形分の増加もあり、同年1～8月期のEU27カ国のバター生産量は148万200トン（前年同期比3.5%増）と増加しており、8月単月で見るとバター生産量は17万2100トン（前年同月比8.4%増）とかなりの程度増加しており、同月の生乳出荷量の増加分は、主にバターおよび脱脂粉乳の生産に仕向けられたものとみられる。

現地報道によると、米国のチーズ価格が低下傾向にあることから、EU27カ国のチーズ価格にも下落圧力がかかっている。このため、一部の域内チーズ製品では、価格の下落が始まっている。なお、2025年（1～8月）のEU域外からのチーズ輸入量は12万8075トン（前年同期比4.9%増）とやや増加している。

輸入先を主要国別に見ると、英国産が7万2767トン、スイス産が3万8568トンであり、また、米国産は1053トン、NZ産にあっては、前年（1～12月）の輸入実績がわずかに505トンであったが、6652トンと大幅に増加している。

図3 乳製品価格の推移



（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

生乳生産量は減少、輸出量はバターおよびバターオイルを除き増加

25年9月の生乳生産量、前年同月比0.4%減

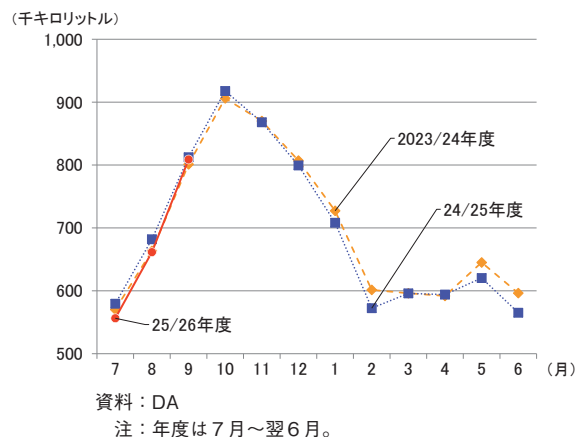
デイリー・オーストラリア（DA）が2025年10月に公表した「Milk Production Reports」によると、同年9月の生乳生産量は80万8805キロリットル（83万3069トン相当、前年同月比0.4%減）とわずかに減少した（図1）。

この結果、25/26年度（7月～翌6月）の9月までの生乳生産量は、202万6671キロリットル（208万7471トン相当、前年同期比2.3%減）とわずかに減少した。

25/26年度の生乳生産量について豪州農業

資源経済科学局（ABARES）は、25年9月に公表した「Agricultural Commodities Report」（以下「報告書」という。）の中で、前年度比2%減の820万キロリットル（844万

図1 月別生乳生産量の推移



6000トン相当）と予測している。この理由についてABARESは、牧草不足を補うための配合飼料の給与により1頭当たりの乳量増加が見込まれる一方、干ばつによる飼料価格の高騰などで酪農家の廃業が進み、乳用牛の飼養頭数がさらに減少するためとしている。

25年8月の主要乳製品の輸出量、バターおよびバターオイル除き増加

DAが2025年10月に公表した「Dairy Export Summary」によると、25年8月の主要乳製品4品目の輸出量は、バターおよびバターオイルを除き増加した（表、図2）。

脱脂粉乳は、輸出量全体に占める割合が高いインドネシア向けが大幅に減少したものの、

ベトナムなど他の東南アジア向けや中国向けが増加したことを受け、前年同月比2.5%増とわずかに増加した。全粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い中国向けが大きく増加したことを受け、同9.6%増とかなりの程度増加した。バターおよびバターオイルは、マレーシアやインドネシア向けは堅調に推移したものの、タイなど他の東南アジア向けや米国向けが大幅に減少したことを受け、同48.3%減と大幅に減少した。また、チーズは、主要な輸出先のうち日本向けが大幅に減少したものの、中国向けが大幅に増加したことを受け、同0.3%増と前年同月並みとなった。

25/26年度の主要乳製品輸出量について

表 乳製品輸出量の推移

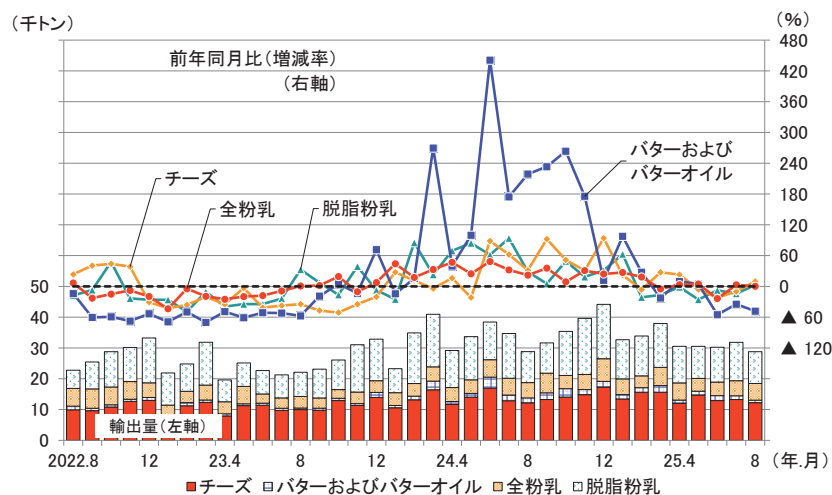
（単位：トン）

品目	2024年 8月	25年 8月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (7～8月)	前年度比 (増減率)
脱脂粉乳	10,065	10,315	2.5%	22,783	▲7.3%
全粉乳	4,952	5,429	9.6%	10,337	▲0.6%
バターおよびバターオイル	1,609	833	▲48.3%	2,037	▲41.0%
チーズ	12,177	12,213	0.3%	25,466	1.7%

資料：DA

注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

ABARESは、25年9月に公表した報告書の中で、生乳生産量が減少する一方で、豪州国内の牛乳・乳製品の需要は堅調であること

から、前年度比で3%減少すると予測している。

(調査情報部 平山 宗幸)

N Z

25/26年度の生乳生産量は前年度を上回って推移

25年9月の生乳生産量、前年同月比2.5%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年9月の生乳生産量は266万5000トン（前年同月比2.5%増）とわずかに増加した(図1)。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、前年同月

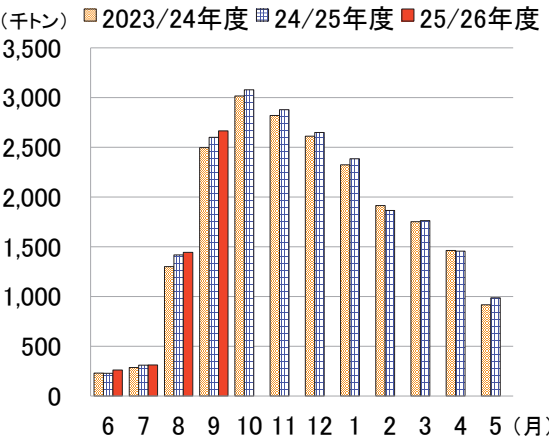
より気温が低かったことなどから牧草の生育が鈍いものの、比較的安価な飼料価格に支えられ、増加につながったとみている。

また、今後の生乳生産の見通しについてNZXは、牧草の生育状況は地域でばらつきが出る可能性があるものの、全体としては前年をわずかに上回ると予想している。

25年9月の全粉乳、チーズの輸出量増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年9月の乳製品輸出量は、主要4品目のうち全粉乳、チーズがいずれも前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、全粉乳、チーズは中国向けがそれぞれ増加したことが寄与した。一方、脱脂粉乳はインドネシア向けが、バターおよびバターオイルはサウジアラビア向けが、いずれも減少したことが影響した。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ「New Zealand Monthly Milk Production Report」

注：年度は6月～翌5月。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

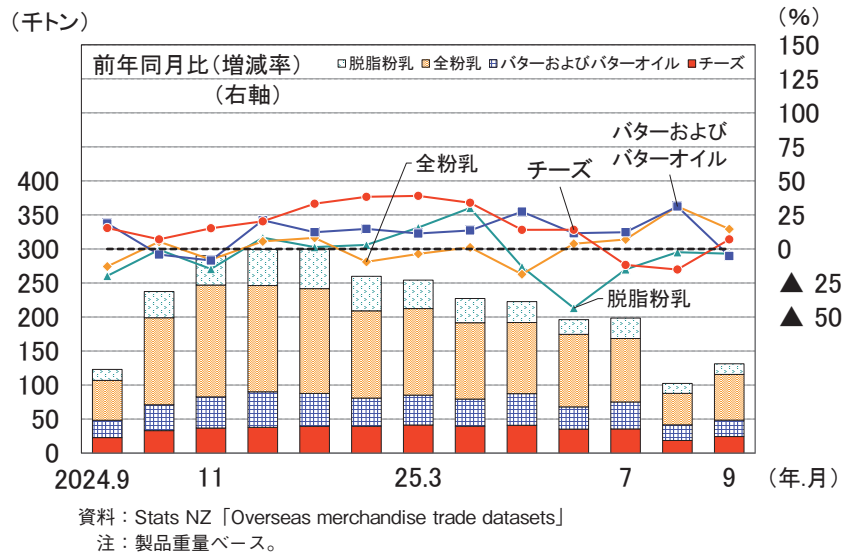
品目	2024年 9月	25年 9月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	16,164	15,596	▲3.5%
全粉乳	58,611	67,174	14.6%
バターおよびバターオイル	25,451	24,138	▲5.2%
チーズ	22,790	24,390	7.0%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



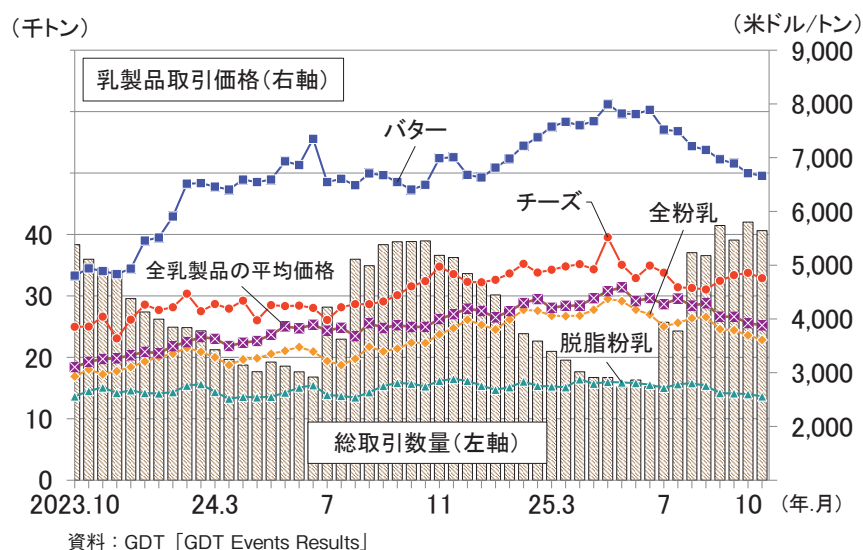
25年10月21日のGDT平均価格、主要4品目すべて下回る

2025年10月21日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、主要4品目すべてで前回開催時（25年10月7日）を下回った（図3）。取引全体では、需要減退と世界的な供給過剰により、市場の下落傾向が強まったことで、全乳

製品の平均取引価格は1トン当たり3881米ドル（60万1943円、1米ドル＝155.10円^(注2)、前回比1.0%安）とわずかに下落した。

（注1）グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



（調査情報部 田中 美宇）

アルゼンチン

25年1～9月の生乳生産量は前年同期比増も、生産者乳価は緩やかに上昇

25年1～9月の生乳生産量は前年同期比10.5%増

アルゼンチン経済省によると、2025年1～9月の生乳生産量は830万8000キロリットル（855万7240トン相当、前年同期比10.5%増）と干ばつの影響下にあった前年同期をかなりの程度上回った（図1）。

1～2月（夏季）は猛暑や干ばつの影響を受けたものの、3月（秋季）以降は、洪水が発生したブエノスアイレス州の一部地域を除き、おおむね天候に恵まれ、飼料穀物や牧草の生育が順調であった。これに加え、家畜に

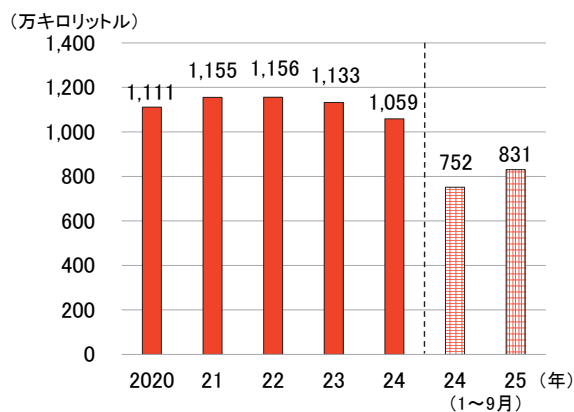
とつても快適な気候が続いたことから、生乳生産量は堅調に推移し、同時期としては23年並みの水準となっている。

25年1～9月の全粉乳輸出量は前年同期比7.1%増

2025年1～9月の主な乳製品輸出量は、全粉乳（前年同期比7.1%増）およびホエイ（同10.7%増）が前年同期をかなりの程度上回った一方、チーズ（同5.1%減）およびバター（同6.7%減）は前年同期を下回った（表1）。

最大の輸出品目である全粉乳は、輸出先第1位のブラジル向けが4万6444トン（同3.4%減）、これに続くアルジェリア向けが3万4292トン（同40.0%増）と、この2カ国で全体の98.2%を占めた（表2）。また、チーズは、輸出先第1位のブラジル向けが3万3277トン（同12.7%減）、これに続くチリ向けが1万3903トン（同15.5%増）と、この2カ国で全体の88.7%を占めた。両輸出品目で輸出先第1位となっているブラジル国内では、生乳生産量が前年同期比で増加しており、乳製品の輸入量が減少している。

図1 生乳生産量（年別）の推移



資料：アルゼンチン経済省

表1 主な乳製品の品目別輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2022年	23年	24年	前年比 (増減率)	24年	25年	前年同期比 (増減率)
					(1～9月)	(1～9月)	
全粉乳	132,901	96,221	111,917	16.3%	76,766	82,242	7.1%
チーズ	56,769	64,029	78,222	22.2%	56,069	53,199	▲5.1%
ホエイ	37,797	39,613	44,625	12.7%	30,635	33,900	10.7%
バター	11,748	5,625	4,270	▲24.1%	2,834	2,644	▲6.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：各品目に該当するHSコードは、全粉乳：0402.21/0402.29、チーズ：0406、ホエイ：0404、バター：0405。

注2：製品重量ベース。

表2 全粉乳およびチーズの主な輸出先別輸出力

(単位：トン)

国名	全粉乳			国名	チーズ		
	2024年 (1～9月)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)		24年 (1～9月)	25年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	48,062	46,444	▲3.4%	ブラジル	38,120	33,277	▲12.7%
アルジェリア	24,495	34,292	40.0%	チリ	12,037	13,903	15.5%
カメルーン	600	675	12.5%	パラグアイ	1,560	2,305	47.8%
チリ	176	252	42.7%	ロシア	287	1,056	267.6%
パラグアイ	7	7	0.3%	ペルー	920	1,026	11.5%
その他	3,425	571	▲83.3%	その他	3,144	1,632	▲48.1%
合計	76,766	82,242	7.1%	全体	56,069	53,199	▲5.1%

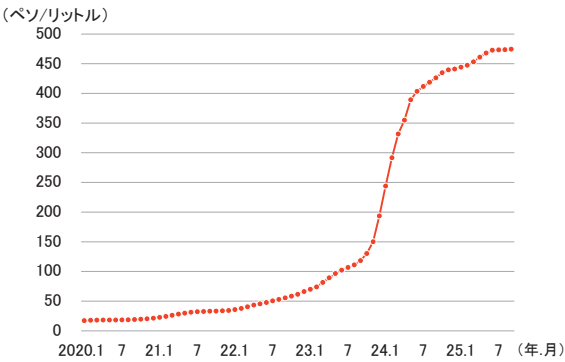
資料：「Global Trade Atlas」
注1：各品目に該当するHSコードは、全粉乳：0402.21/0402.29、チーズ：0406。
注2：製品重量ベース。

生産者乳価は急上昇から落ち着き、
緩やかな上昇傾向

アルゼンチン経済省によると、2025年9月の生産者乳価は、1リットル当たり474.60ペソ（52円：1ペソ＝0.11円^{（注）}、前年同月比11.4%高）と前年度月をかなり大きく上回った（図2）。アルゼンチンの生産者乳価は、同国の高水準となるインフレ率を背景に上昇傾向にあった。24年4月に292.2%を記録したインフレ率は、その後低下傾向となり、25年9月に31.8%となった。これに連動する形で、生産者乳価の急激な上昇は落ち着いたものの、依然として緩やかな上昇傾向で推移している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 生産者乳価の推移



資料：アルゼンチン経済省

（調査情報部 原田 祥太）

飼料穀物

世界

米国政府機関の一部閉鎖により直近の情報を入手できなかったため、掲載を見送ります。

米国

米国政府機関の一部閉鎖により直近の情報を入手できなかったため、掲載を見送ります。

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

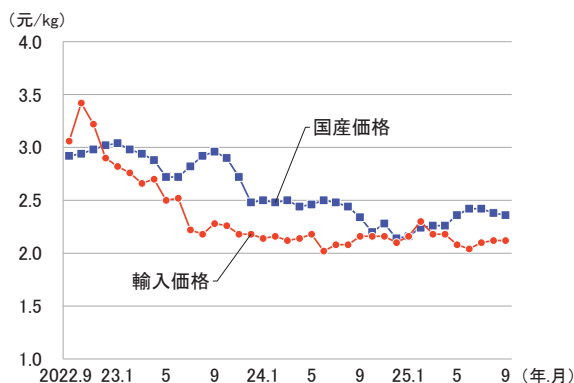
25年9月の国産トウモロコシ価格、国内需給を反映してわずかに下落

中国農業農村部は2025年10月24日、「農産物需給動向分析月報（2025年9月）」を公表した。これによると、25年9月の国産トウモロコシ価格は、前月からわずかに下落した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では、主産地での収穫開始に

より市場への供給量は増加した。一方、需要面ではコーンスターチ製造企業の需要低下から在庫補充の動きも少なく、工場稼働率も5割程度に低下する中で、全体的な需給はやや軟調とされる。9月下旬の全国の主要コーンスターチ製造企業の製品在庫量は、前年同期比28.9%増の114万トンと高い水準にあることが報告されている。今後、収穫が進むにつれて、国産トウモロコシ価格は段階的な下落圧力が生じるものの、輸入が大幅に減少していることに加え、備蓄による価格調整政策の支えもあり、同価格は適正な水準を維持すると見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる^{かんどん}広東省^{こうほ}黄埔港到着価格は、25年9月が前月同の1キログラム当たり2.12元（47円：1元＝21.97円^{（注）}）となった。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.36元（52円、同0.8%安）とわずかに下落したことで、輸入と国産の価格差は縮小した。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

25年9月の国産大豆価格、新穀の収穫開始も様子見からわずかに下落

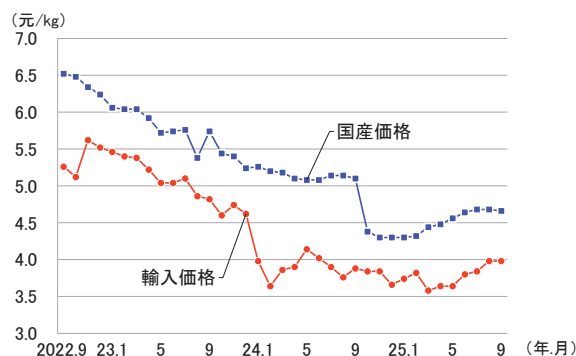
2025年9月の国産大豆価格は、前月からわずかに下落した（図2）。同月の大豆需給を見ると、大豆市場は旧穀と新穀の切り替え時期にあり、取引業者は様子見の状況とされている。国慶節後の10月10日以降は産地での収穫がピークを迎え、市場への供給増が見込まれるが、輸入大豆のコストが高いことを考慮すると、当面の国産大豆価格は安定的な推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、25年9月が1キログラム当たり4.08元（90円、前年同月比12.6%安）と前年同月をかなり大きく下回ったものの、3カ月連続で前月水準を維持した。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同4.66元（102円、同8.6%安）と前年同月をかなりの程度下回ったものの、前月水準を維持した。さらに、同月の輸入大豆価格は同3.98元（87円、前月比同）となり、輸入と国産の価格差は縮小した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年水準を上回っている。25年（1～8月）の輸入量は7331万トン（前年同期比4.0%増）とやや増加した。また、輸入額は同9.5%減の325億9400万米ドル（5兆553億円：1米ドル＝155.10円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の71.9%）、米国（同22.9%）、カナダ（同1.3%）であり、ブラジルからの輸入が増加している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

（調査情報部 横田 徹）